

海神 イソラ

【日本神話】

イソラ（磯良）は、志賀島（しかのしま。福岡県）を拠点とした古代の海洋民族・安曇（あずみ）氏の祖神です。記紀には登場しませんが、中世の「太平記」では、海底に棲む精霊として描かれ、神功皇后の三韓出征の際に招かれたものの、海藻や貝が顔にはりついて醜いことを恥じて現れず、住吉の神が舞を奏したところそれに応じて参上し、神功皇后の水先案内を務めたとされています。

【対馬の伝承・異伝】

イソラは豊玉姫の子とされ、ウガヤフキアエズと同一視されています。和多都美神社（番号63）の社殿前の干潟には、亀のウロコのような亀裂があるイソラエベス（磯良夷）と呼ばれる霊石が祭られています。

また、神功皇后の出征に関連し、厳原町阿須（あず）で皇后を出迎えたとか、上対馬町琴（きん）・琴崎沖で沈んだ碇を潜水して取りもどした、損傷した船の傷口に大きなアワビを貼りつけて応急処置した、上対馬町五根緒（ごねお）に上陸した、などの伝承があります。

琴崎は海神にまつわる伝承が色濃く、海底には「竜宮の門」があり、亀に乗ったイソラがその門を出入りするとか、琴崎大明神（＝胡祿神社、番号124）の御神体は海神の祭日である3月3日に、巫女が磯ですくいあげた金色の小蛇だとされています。



ころくじんじゃ 胡祿神社

神社番号 124 式内社（名神大社）

周辺の神社 胡祿御子神社（125）

アクセス

上対馬町琴（きん）集落に鎮座する胡祿御子神社右横の山道を800m歩きます。途中の分岐点を直線すれば琴崎灯台、左折すれば琴崎方向です。

周辺の雰囲気・環境など・神社のプロフィール

胡祿神社の鳥居は海に向いて立ち並び、眼前には対馬海峡の大海原が広がり、対馬の原始的な海神信仰の雰囲気は今に伝えています。神島である黒島様とのケンカの際、竹を投げつけたので竹が無く、松が残ったという伝説があります。